第２号様式（第１２条関係）

令和４年度　第３回大和市文化創造拠点等運営審議会　会議要旨

１　日時

令和４年１０月２１日（金）午後３時３０分～５時００分

２　場所

文化創造拠点シリウス２階　２－２会議室

３　出席者

（１）審議会委員

７名

（２）事務局

５名（文化・スポーツ部長、図書・学び交流課長、図書係長ほか２名）

４　傍聴人数

なし(非公開)

５　議題

文化創造拠点等運営審議会について

６　議事要旨

（１）委嘱状交付

机上にて委嘱状の配布を行った。

（２）市長挨拶

大木市長より挨拶を行った。

（３）委員紹介

各委員及び事務局の自己紹介を行った。

（４）会長及び職務代理の選出

それぞれの選出を行った。

（５）議題について事務局説明及び質疑応答

［事務局説明］

資料に沿って説明を行った。

［質疑応答］

委　　員：只今の事務局説明を受けて何か質問があれば。長く委員をやってきたが、絵本については今回の会議が初めてである。大変興味深く話を聞いた。他の委員はどうか。

委　　員：「絵本のまち　やまと」の３歳６か月児健康診査を機会に図書館への来館を促す事業について、どれくらいの効果があるのか、実施してみた結果を楽しみにしている。

委　　員：質問を一つ。「絵本のまち　やまと」関連事業実施にしたことで、大和市の図書館で絵本利用及び貸出等で顕著な変化などあれば伺いたい。

事　務　局：「絵本のまち」関連事業を始めたことで絵本の貸出数が顕著に伸びた、というようなことはまだ見られない。現在は「絵本のまち」に因んで外国の絵本、外国語で書かれた絵本など、多様な種類の絵本を収集し、蔵書を充実させようとしていその後、貸出等の利用が促進されることを期待している。

委　　員：「公共図書館と絵本」という括りで、他の図書館も含めて何かトレンドがあるのだろうか。絵本が充実していない時代に育った世代としてはあまり明るくない分野なもので。

委　　員：「図書館城下町」というブランドで４か月児健康診査を利用した「ブックスタート」、３歳６か月児健康診査を利用した「セカンドブック」の実施と、乳幼児、未就学児から小さなステップを踏んで絵本に触れるきっかけがあることは理解した。一方で、市では学校の読書活動に力を入れているとのことだが、学校との連携はどうなっているのか。

事　務　局：「絵本のまち」関連事業自体はこども部と連携して実施しており、乳幼児、未就学児がターゲットとなっている。それから、学校の読書活動については、以前から学校と図書館との連携ということで、先生が図書館の蔵書を授業で使い

易くなるような施策を進めている。また、電子図書館については、図書館に足を運びづらい社会人等もターゲットとなっている。それぞれの世代に応じた施策を推し進めている。これによって結果的に「図書館城下町」というイメージが作れれば良いと考えている。

事　　務　　局：以前から、学校現場と図書館との連携はなかなか進みづらかった。学校の読書推進は教育委員会の指導室が中心となり、それぞれの学校の特色に合わせた素晴らしい施策を進めており、児童が学校図書館を中心にとても楽しみながら本に親しんでいる。それはそれで進めている中で、公立図書館との連携をどうするか、という課題がずっとあった。今、指定管理者と連携した施策を進めており、図書館の蔵書の貸出、返却手続きの円滑化や電子図書館の朝の読書活動での利用の促進につながる施策を進めており、動き始めている。また、「絵本のまち　やまと」はもともと「子育て大国　やまと」という子育て施策の一環でもある。現在、大和市は子育て世代を中心とした人口の社会増が見られるなどしている。他方、「男性の一人暮らし」が増えているとの統計もある。その様な方々の居場所という意味で、図書館や各学習センターが機能している面もある。なかなか難しいところもあるが、世代ごとの居場所から、世代間の交流の場としても活かしていければと考える。

委　　員：電子図書館の拡充というところ。今学校ではギガスクール構想により、一人一台のタブレットが支給されている。そういった意味で、公立図書館のサービスも入り込みやすいのではないか、というのが一つ。もう一つは、学校の図書館の蔵書では足りない内容があるときに図書館の蔵書が活用が今よりできるような連携が図れればよいと思う。

事　　務　　局：今まさに委員が言われたところをこれから進めたいと考えている。

委　　員：絵本に対する取り組みは大変興味深い。電子書籍について

は、どこの図書館も導入からしばらくして利用できるコンテンツが少ないと利用者が離れていく現状がある。いかにコンテンツを充実させ利用者離れを防止していくかが今後の課題となると思う。また、「絵本大賞」について、他市では受賞作品の電子書籍での出版や地域の書店と連携した取り組みも見られるので、情報共有させて頂く。

委　　員：「公共図書館と絵本」ということで今、各所で取り組みが広がっているのかもしれない。「和歌山市民図書館」の「こどもとしょかん」には「えほんの山」というコーナーがある。それから、タブレット対絵本でいうと、私見で間違っているかもしれないが、両者の違いは「媒体」というより「コミュニケーション」であると思う。タブレットは一人の世界に入っていくが、絵本は読み聞かせることで人間的なつながりが生まれる。それはかなり重要なファクターではと考える。

委　　員：まさにそのとおりだと思う。

委　　員：そうすると、絵本の周りにどういうコミュニケーションが生まれていくのか、というのがポイントということか。

委　　員：私の経験からすると、子どもから気に入った絵本は、毎日読むことをせがまれたことを覚えている。それは、親側の気持ちを育てることにもつながっていた。やはり、子どもが低年齢のうちはお互いの呼吸が感じられる、膝元で読むような本来の姿を大切にしたい。子どもたちが膝元で見上げながら一喜一憂している様子を感じながら読み進められるのは、人だからできることで、電子書籍ではなかなか難しい。だんだんと文字が読めるようになって一人で読むようになることは悪いことではないが、やはり小学校の低年齢くらいまでは、読み聞かせをすることが大切だと思う。それによって、子どもは人と一緒に生きていくことを学び、大人はその時その時代のことを肯定的に振り返えられる。

委　　員：今の発言を付言すると、このキャッチコピー「子育てする

なら絵本のまち」は、「絵本から始まるコミュニケーションがあるコミュニティである」と、読み換えるとすればそういうことではないか。

事　　務　　局：まさにそのとおり。基本的にはこの「絵本のまちやまと」は図書館施策とすれば読書推進であり、こども部の方で考えれば子育て支援の一環あり、親子の絆を深める施策である。その一つの共通のキーワードになるのが「絵本」であると言える。

委　　員：ということは、この審議会としては、絵本の数が増えるのが問題なのではなく、今発言されてきたものがどのように育っていくかというのが評価軸になる。一年後の課題が見えたように思う。

委　　員：先ほどの意見の中で、「コミュニティ」という言葉が使われた。絵本の読み聞かせに関連して、今は難しいかもしれないが、一例として高齢者ボランティアが読み聞かせを行う取り組みがある。血のつながりのない高齢者と子どもが一対一で読み聞かせを行う自治体もある。「コミュニティの中の子育て」や「疑似的な孫」として接する中で、高齢者の側も健康増進につながっている。コミュニティの中のコミュニケーションのツールとしても活用していけると思った。

委　　員：「男性の一人暮らし」に関連して、「絵本の読み聞かせ」は子育てだけではなく、地域全体がつながるツールになり、ステップを踏んで世代間交流などのコミュニケーションの場に発展する可能性があると考える。

委　　員：伺いたいのは、高齢者の方に対する読み聞かせである。高齢者の方が持てる楽しみの一つになるのではないかと思うのだが。

委　　員：高齢者に対する読み聞かせの要請も年に数件ある。しかし、やってみると本を一冊読み切った例がない。「本を読んでほしい」というのは口実で、「話相手になってほしい」というのが本心のようだ。しかしながら、そういうことがあるにし

ても、「本」というツールによって、今まで孤立していた高齢者の方も小さなコミュニティを作りたい気持ちがあることが分かる。「本を読む」「本を聞く」ことが目的ではなく、コミュニケーションのためのツールとして非常に大切だと思う。先ほども出た絵本の施策について、蔵書の数が問題なのではなく、絵本を用いたコミュニケーションの場づくりにつなげることが重要だ。

委　　員：「子育てするなら絵本のまち」へのイメージが大分見えてきた。この思想は、図書館だけでなく、ホール事業にも関係する。指定管理者にサントリーがあるが、サントリーホールで開催されている「こども定期演奏会」というのに行ってみると、そこそこ高齢の男性が一人で鑑賞しに来ている。他人の子どもが楽しそうに参加する様子を後ろの方で嬉しそうに見ていたりする。「子育てするなら絵本のまち」を図書館事業の中だけで完結するのではなく、文化創造拠点全体の事業で展開していくべきだろうか。

委　　員：していくべきだろう。そういう場づくりなどで。それが非常に重要だ。

委　　員：そうすると、大和では施設間の連携がともかく言われていたわけだが、このような事業が始まると、「これは図書館の事業だから、うちは違う」とはいかないということだろうか。

委　　員：そうだろう。それは違う。

委　　員：そうすると、評価する方としても一年後の評価軸が見えてきたということだ。

事　務　局：やまと芸術文化ホールのホール事業では、サントリーパブリシティーサービスのほうも「０歳からのオーケストラ」というような単発の公演も積極的にＰＲされている。色々工夫はできると思う。

委　　員：サントリーホールの方は単発ではなく年に４回開催されてる。１回２，５００円。音楽会に行く習慣を育てる、とい

う意味もある。他に、何か。

委　　員：見方が違うのかもしれないが、私はよく中央林間図書館に行く機会がある。あそこは絵本が充実している。若い親と小さな子どもが一緒に絵本を選んでいてとても良い雰囲気であると思う。中央林間図書館にノウハウがあるのなら、そのあたりの意見も参考にしていければと考える。

［その他］

事務局より、事務連絡が行われた。

［閉会］

会長より、審議会の閉会が宣言された。

会議資料

・資料１

「大和市文化創造拠点等運営審議会について」

・資料２

「大和市各種関連計画等について」